

若手教師の授業力向上を目指した校内研修に関する一考察 —富山市立堀川小学校の同僚性に着目して—

高橋 純一 (環太平洋大学)

キーワード : Horikawa Elementary School, Teachers' Collaboration, In-school meetings
experienced teachers, young teachers

1. 研究の背景と目的

本研究の目的は、次の問いに答えることである。校内研修において、どのようにして若手教師の授業力を向上させたら良いのだろうか。その問いに答えるために、富山市立堀川小学校における校内研修の中でも、とりわけ同僚性に着目したい。

現在、教師の大量退職、大量採用時代を迎え、若手教師の採用数が急激に増加している。そのため、各学校においては先輩教師が後輩教師に対して、どのようにこれまでの指導技術を引き継ぎ、発展させていくのか課題となっている。この課題解決に向けて、大きな役割を果たすのが校内研修である。今日的な校内研修の課題に対して、示唆的なのが富山市立堀川小学校である。堀川小学校(2006)は、日常の校内研修において、「きびしい仲良し」という教師の同僚性を重視している。当校は、「子どもの事実に謙虚に学び、互いに向上していこうとする教師集団を基盤」とし、教師同士が頻繁に授業見学をして、放課後に授業における子どもの捉えについて同僚間で先輩、後輩の上下の区別なく、意見が交わされる光景が見られる。そこで、堀川小学校を研究対象とし、先輩教師と後輩教師とのどのような信頼関係が構築されているのかについて検討する。

2. 先行研究の分析

校内研修に関連する同僚性に焦点を当てた先行研究は概ね、形成要因に着目した研究と、形成された同僚性が果たす役割に関する研究がある。しかし、先行研究では、校内研修における同僚性が形成され、有効に機能し発展させるために必要な先輩、後輩教師の関係性が明らかにされてはいない。すなわち、先輩教師が後輩教師に対してどのような関わり方をしているのか、また後輩教師は先輩教師からの関わり方をどのように受け止め、自らの授業力向上に結び付けているのか、その関係性を明らかにすることによって、同僚性を基盤とした校内研修の実現に迫ることができるのである。

3. 研究の方法

堀川小学校の日常的な校内研修における先輩、後輩教師の関係性を捉えるために、主に研修だよりとインタビュー調査による分析・検討を行う。まず、先輩教師が日常の校内研修において、後輩教師に対してどのような関わり方を行っているのかを把握するために、研修教務担当の教務主任(先輩教師A)が発行する研修だよりの分析を行う。また、先輩教師Aを研究対象とした半構造化インタビュー調査を実施する。さらに、後輩教師が日常の校内研修において、先輩教師からどのような助言を受け、どのように受け止めているのかを把握するために、後輩教師BとCに対して半構造化インタビュー調査を実施する。

4. 研究の結果及び考察

本研究の結果から、特筆すべきことが3点ある。

1点目は、研修だよりを、後輩教師の授業力向上促進の有効な発信ツールとして活用しているのである。2点目は、インタビュー調査結果から先輩教師に焦点を当てて見える後輩教師への関わり方についてである。校内研修では後輩教師の授業後に語る内容から、それとは異なる見方で子どもをどう捉えたのかについてその見解を伝え、後輩教師のリフレクションを促したのである。3点目は、インタビュー調査結果から後輩教師に焦点を当てて見える先輩教師の関わり方に対する受け止めについてである。後輩教師は、先輩教師から自身の見解とは異なる見解に触れて、無批判に追従するという姿勢は見られなかった。後輩教師は先輩教師の見方を受け止め、自身の授業実践の可能性を広げていったのである。

5. 今後の課題

今後は、さらに対象者を拡大してインタビュー調査を実施し、堀川小学校における校内研修の取組を分析・検討することを通して、教師教育に関する実践について考察を深めていく必要がある。このことを筆者の今後の課題にしたい。